

2025年4月24日(木)

先進的式避難所運営に学ぶ② ～イタリア～

ヨーロッパの中では自然災害の多い国として知られているイタリアですが、専門家の間で台湾と並んで迅速で効率的な避難所運営で知られています。イタリアでは、過去の教訓をもとに"被災者の命と健康を守る避難所"づくりと運営に重きを置いています。

ここイタリアでも、台湾と同じく自治体だけでなく全国に支部をもつ大規模なボランティア団体の主催で訓練が行われています。訓練と言っても、その規模や運び込まれる資材は大量で、本番さながらに大型のトラックやコンテナなどが用いられます。中でもイタリアが力を入れているのが避難所設営や運営を担う人材養成です。事前に十分な研修や訓練を受けて登録された人たちが中心になって運営されている点で日本とは大きく違います。

イタリアでは過去に多くの地震に見舞われてきた経験から、国が人とモノを整えて、12時間以内に被災地に向けて出発できるように、ふだんから州・県・市と連携して動ける仕組みをつくっています。全国には、本業の仕事を中心に養成訓練を受けた専門的なボランティアが約30万人もいるそうです。移動や資材搬入にかかる費用は国や自治体の負担で行われており、特に必要な訓練として力を入れているのが、TKBと言われるトイレ、キッチン、ベッドです。具体的には「安心できるトイレ」「温かい食事」「ベッド」をすぐに届けられるように最善を尽くしているのです。実際、2016年のイタリア中部地震の時には、地震発生から48時間以内に快適なコンテナ型トイレ、家族ごとに冷暖房付きテントとベッドが提供されたとのことでした。

たとえば、人口300万人のマルケ州（広島県とほぼ同じ）には、州内に14か所の災害拠点センターが準備されています。ここには防災無線設備が整備されており、コンテナなどの資材が準備されており、訓練ではなく日頃から市の安全局のボランティアにより運営されています。たとえば、避難所生活で体調を崩す原因となるトイレは、1台につき4個の個室の備えられたコンテナ式トイレカーが10台程度整えられています。つまり、マルケ州では10人に1つ個室トイレということになり、日本の避難所のトイレ設置基準が50人に1個ですから大きくことなります。もちろん車椅子用トイレも充実しているそうです。



マルケ州の位置

また、イタリアが避難所運営で最も力を入れているのがキッチンカーです。「食文化の国」らしくキッチンカーを使って、コックの資格をもったボランティアが温かい料理を提供します。そのために調理台だけでなく、冷蔵庫やイタリア人には欠かせないパスタ用鍋を備えたキッチンカーが整えられています。実際の避難所では、「体と同時に心も温かく」という配慮から昼と夜の食事は温かい食事が 2 皿は提供できるようにしているそうです。もちろん食事制限の方や高齢者などにも対応できるようにしているそうです。この点では、おにぎりや菓子パンの多い日本の避難所とは大きく異なります。

このようにイタリアでは、避難所運営の国家的な標準が法令によって定められています。その基準のもとになっているのが、避難所運営の国際標準とされる『スフィア基準』です。これは過去に難民キャンプや避難所運営に多く携わってきた国際赤十字やボランティア団体によって定められたもので、「すべての災害や紛争から影響を受ける人びとは、尊厳ある生活を営む権利を有しており、そのための保護と支援を受ける権利を有する」ということです。この基準によれば、避難所での 1 人あたりのスペースは最低で 3.5m²、トイレは 20 人に 1 台で女性は男性に対して 3 倍設置することになっています。蛇口は 250 人につき 1 基、洗濯施設は 100 人に 1 基、入浴は 50 人につき 1 基などとなっています。

さて、日本の避難所は…。



コンテナ式トイレカー
スロープ付きトイレ



避難所での食事提供訓練

石飛 一吉

参考図書

笠岡(坪山) 宣代(2020)イタリア式の避難所における生活支援・食事支援の事例～キッチンカー、食堂、トイレ、シャワー、ベッド、テントのパッケージ支援～「日本災害食学会誌」vol.7 No.1, pp.15-26.

Sphere(2018)『スフィアハンドブック 2018』324 頁. chrome-extension://efaidnbmnn

日本トイレ研究所「トイレマガジン」 <https://toilet-magazine.jp/disaster/1656>